

令和 7 年度使用

中学校用教科用図書研究資料

技術・家庭（技術分野）

令和 6 年 7 月

教科用図書南那珂採択地区協議会

Ⅰ 教科目標の達成及び単元（題材）の構成・配列等

〔観点Ⅰ〕 学習指導要領に示された教科の目標を達成するために、構成・配列等について、どのような工夫が見られるか。

発 行 者	概 評
2 東 書	(1) 技術科の目標を達成するために、内容ごとに「生活や社会を支える技術」「技術による問題の解決」「社会の発展と技術」の一連の流れの中で学習を進めることができるようにし、さらに技術の見方・考え方をマンガと連動した「最適化の窓」で気付かせるなどの工夫が見られる。
6 教 図	(1) 技術科の目標を達成するために、内容ごとに「技術を見つめよう」「技術をいかそう」「未来をつくろう」という一連の流れの中で学習を進めることができるようにし、技術の見方・考え方を様々な立場の視点から見た問題解決で気付かせるなどの工夫が見られる。
9 開隆堂	(1) 技術科の目標を達成するために、生活や社会の中にある技術に気付かせながら基礎・基本を習得させ、「問題解決→実習例→学習のまとめ」という一連の流れの中で学習を進めることができるようにし、技術の見方・考え方を身近な製品の特徴から気付かせるなどの工夫が見られる。

2 内容や指導の充実

〔観点2〕 主体的・対話的で深い学びを通して、目指すべき資質・能力を確実に身に付けさせるためにどんな工夫が見られるか。

発 行 者	概 評
2 東 書	(1) 「知識・技能」を習得するために、作業の手順、植物の育成方法、工具の使用法等を写真や動画にまとめ、「やってみよう」で実際に体験し知識・技能の習得を確認する工夫が見られる。 (2) 「思考力・判断力・表現力等」を育成するために、最初に5段階の問題解決学習の流れを詳しく説明し、製作の例を3つ提示してある。また、「technology」のワークシートのページで協働学習をしやすくする工夫が見られる。 (3) 学びに向かう力・人間性を育成するために、「技術の匠」のページにおいて最先端の仕事を紹介することで、興味・関心を高め、将来の職業の選択や生き方との関わりについて考えることができるような工夫が見られる。
6 教 図	(1) 「知識・技能」を習得するために、作業の手順、植物の育成方法、工具の使用法等を写真や動画にまとめ、「ふり返る」で知識・技能の習得を確認する工夫が見られる。 (2) 「思考力・判断力・表現力等」を育成するために、4段階の問題解決学習の流れを4コマ漫画でまとめてあり、製作の例を2つ提示してある。また、「未来をつくろう」で技術のプラス面、マイナス面を示し、協働学習をしやすくする工夫が見られる。 (3) 学びに向かう力・人間性を育成するために、「技ビト」のページにおいて伝統・技能を紹介することで、興味・関心を高め、将来の職業の選択や生き方との関わりについて考えることができるような工夫が見られる。
9 開隆堂	(1) 「知識・技能」を習得するために、作業の手順、植物の育成方法、工具の使用法等を写真や動画にまとめ、「CHECK」で知識・技能の習得を確認する工夫が見られる。 (2) 「思考力・判断力・表現力等」を育成するために、最初に4段階の問題解決学習の流れを説明し、製作の例を数多く提示してある。また、「やってみよう」の発問で協働学習をしやすくする工夫が見られる。 (3) 学びに向かう力・人間性を育成するために、「interview」のページにおいて仕事の特徴ややりがいを紹介することで、興味関心を高め、将来の職業の選択や生き方との関わりについて考えることができるような工夫が見られる。

3 利便性の向上

〔観点3〕 学習効果や使用上の利便性を高めるとともに生徒にとって分かりやすいという視点から、どのような工夫が見られるか。

発 行 者	概 評
2 東 書	(1) 学習効果や使用上の利便性及び生徒の興味関心を高めるために、必要な技能をまとめた「TECH Lab」コーナーで写真や図版を用いたり、二次元コードから作業動画などのデジタルコンテンツを活用できるようにするなどの工夫が見られる。
6 教 図	(1) 学習効果や使用上の利便性及び生徒の興味関心を高めるために、問題解決学習で生徒が自分で調べられるように、別冊「スキルアシスト」を作成したり、全ページで二次元コードから技能動画などのデジタルコンテンツを活用できるようにするなどの工夫が見られる。
9 開隆堂	(1) 学習効果や使用上の利便性及び生徒の興味関心を高めるために、製作等の手順に沿って分かりやすく作業を進めることができるように生徒のキャラクターを登場させたり、二次元コードから動画や資料などのデジタルコンテンツを活用できるようにするなどの工夫が見られる。

4 地域の願いや思い、生徒の実態等

〔観点4〕 家庭や地域と連携した学習の推進とともに、生徒の確実な基礎・基本の定着という観点から、どのような工夫が見られるか。

発 行 者	概 評
2 東 書	(1) 地域と連携した学習内容として、「技術の匠」や「伝統文化」が設定されており、生徒が「すごいぞ！技術」について学ぶことを通して地域への愛着をはぐくむための工夫が見られる。 (2) 生徒の確実な基礎・基本の定着のために「目標」が配置されたり、「学習のまとめ」で習熟が図られたりできるように工夫されている。
6 教 図	(1) 地域と連携した学習内容として、「共生」や「伝統文化」が設定されており、生徒が「夢をかなえる技術」を学ぶことを通して地域への愛着をはぐくむための工夫が見られる。 (2) 生徒の確実な基礎・基本の定着のために「めあて」が配置されたり、「編のまとめ」で習熟が図られたりできるように工夫されている。
9 開隆堂	(1) 地域と連携した学習内容として、「Interview」や「伝統文化」が設定されており、生徒が「これからの技術」について学ぶことを通して地域への愛着をはぐくむための工夫が見られる。 (2) 生徒の確実な基礎・基本の定着のために「学習の課題」が配置されたり、「学習のまとめ」で習熟が図られたりできるように工夫されている。